



紙面のガーデニング
ラルクに咲く「ハナミズキ」

URAWAGAKUIN HIGH SCHOOL

浦学だより

Vol. 87

2012.6.25

336-0975

埼玉県さいたま市緑区代山172

048-878-2101 048-878-3335

<http://www.uragaku.ac.jp/>

発行者 浦和学院高等学校広報部

編集者 浦和学院高等学校企画部

選抜高校野球 ベスト8

野球部は、第84回選抜高校野球大会にて準々決勝戦まで進み、強豪大阪桐蔭高校に2-3で惜敗しましたが、10年ぶりベスト8という成績を残しました。

1回戦は敦賀気比高(福井)に10-2、2回戦は、三重高(三重)に2-0と快勝しましたが、準々決勝では強豪の大坂桐蔭高に9回で逆転され、「あとひとつ、あと一步」の惜敗となりました。先発投手の山口は5回を3安打無失点に抑え、その後エースの佐藤に交代し最後まで健闘しましたが、相手校のエースを前に打線が思うように振るわず、最終回で逆転され、1点差の悔しい結果となりました。しかしながら、「堅守の浦学」、そして堂々とした戦いぶりは、本当に誇らしく思えました。

「みんなで守りながら1点をもぎ取る野球」(森監督)を胸に、夏の全国大会出場をめざして、日々練習に励んでほしいと思います。



全国選抜大会

男子テニス部

3年K組 前島 克哉 (川口市立青木中学校出身)

私達テニス部は、男女共に3月22日から博多で行われた全国選抜大会に出場してきました。県大会、関東大会という苦しい予選を勝ち抜き全国選抜の切符をつかむことができました。しかし、2回戦で長野県の松商学園に男女共に負けてしまい、大変悔しい思いをしました。自分達のレベルの低さがとてもよくわかりました。これから自分達が何をしなければいけないのかもよく分かりました。また、2ヶ月後には、インターハイの予選、そして最後にはインターハイといった苦しい戦いが待っています。もう同じ失敗はしたくありません。

1人1人がテニス部だという、自覚をもち互いに声を掛け合い、全員で勝ちにいきたいと思います。応援よろしくお願いします。



女子テニス部

3年L組 秋元 玲乃 (入間市立東金子中学校出身)

私達テニス部は、3月21日から行われた全国選抜高校テニス大会に男女で出場しました。県予選、関東予選と苦しい戦いの中で、女子は3年ぶり、アベックでは4年ぶりに全国選抜の切符を手に入れることができました。いろいろな想いを胸に挑んだ結果、1回戦は岩手の盛岡白百合高校に勝ち、2回戦目に長野の松商学園高校に負け、ベスト32という結果になりました。団体戦の悔しさをバネに挑んだ個人戦では、1、2回戦を突破し、3回戦目に東京の早稲田実業高校に負け、ベスト16で終わりました。今まで支えて下さった先生方、保護者の皆様に感謝したいと思います。今後インターハイに向けて精進するので、応援よろしくお願いします。



24年度の本校の指針

学校法人明星学園理事長 小沢 友紀雄
浦和学院高等学校校長

私が校長になり、早くも任期の4年を経過しました。そして、本年3月28日の学校法人明星学園理事会で、改めて学園理事長兼高等学校長に再選されましたので、気分を新たにして本校の方針に関して簡単に述べさせていただきます。一口に言えば今までの私の方針の継続であります。

浦和学院高等学校のビジョンは「夢と希望に満ちた、明るく開けた学園」であり、その完成のためには「常に前向き、そこには夢と希望がある」という姿勢を貫くことです。そして「頑張る仲間を皆で応援」の精神で「浦学ファミリー」を構築することが必要です。

具体的な方略としては、国際的な視野に立った教育を行い、全国レベルの進学と部活動を成功させ、品格のある文武両道の浦学を実現することですが、「品格のある」という部分の完成には相当の努力が必要とされます。

以上のような学校方針の一般目標の推進と学校の活性化に加速をつけるために、石原副校長に校長代行をも兼任して頂くことにし、理事会での承認を得ました。そして、GDR(グランドデザインルーム・校長・校長代行・事務長・事務長代行の4人で構成)はその機能を強化して、学校の将来のビジョンを完遂するための学校活性化プロジェクトを推進する校長を補佐するものとします。

GDRの現在のプロジェクト(p)の主なものを挙げると、国際交流・教育p・浦学データバンクp・東大(国公立大)p・グローバルコース推進p・部活動活性化p・「浦学ファミリー」「仲間意識」推進p・健康科学センター推進p・転退学改善p・東日本大震災石巻交流p・問題解決型教育・研究発表p・グループサポートp・防災・安全対策p・基礎学力向上p・教職員研修pなどがあります。

これらのプロジェクトを皆で協力して進めることで、楽しい3年間の学校生活がますます充実し、浦和学院高等学校は「品格のある夢と希望に満ちた学園」になるに違いありません。浦学ファミリーとしてのご協力をお願いいたします。

ソングリーダー部

3年L組 杉本 優
(上尾市立大石中学校出身)

3月24日に幕張メッセで「USA Nationals in Japan 2012」が行われました。私達は、11月に行われた大会で全国大会進出を果たせなかったため、その悔しさをバネに毎日練習に励んできました。時にはぶつかり合い、涙した日もありましたが、チーム全員気持ちを一つにし、同じ頂点を目指して見事全国大会の切符を手にする事ができました。大会では入賞する事はできませんでしたが、全国大会という夢の舞台で踊れる喜び、それは大きな自信に繋がりました。その反面、全国大会という壁の厚さを痛感し、学ぶ事ができました。

コーチ、顧問の先生方、保護者の方々、先輩方、全ての方々に感謝します。これからも「礼儀・笑顔・元気・感謝」を忘れず、大会ではもっと上を目指して日々練習に励みたいです。これからも応援よろしくお願いします。



パワーリフティング部

3年O組 今成 貞也 (三郷市立早稲田中学校出身)



私は、3月25日に大宮武道館で開催された、全日本選抜高校パワーリフティング選手権大会に出場しました。パワーリフティングとは、3種目での合計重量を競う競技です。私達パワーリフティング部の面々は、それぞれが持つ大きな目標に向かって、日々、とても過酷な練習を行ってきました。私もまた、今回の大会での優勝を目指し、仲間たちと励まし合いながら練習をしてきました。しかし、結果は5位という納得のいかないものであり、仲間たちにもまた、おしゃくも優勝を逃してしまった者もいました。

今回、私たちは今の自分たちの力量を知ることが出来ました。今回の結果は、納得のいくものではありませんでしたが、今回の大会を無駄にしないためにも、今回の結果を足掛かりとして、夏の大会に向けてさらなる向上を目指していきます。



男子ハンドボール部

ベスト8

3年K組 鈴木 洋介 (吉川市立中央中学校出身)

私達ハンドボール部は、3月25日から岩手県花巻市で行われた全国選抜大会に出場しました。県大会、関東大会の覇者として挑みました。そして、上位進出を狙って臨んだ全国大会は、2回戦宮崎県の小林秀峰高校、3回戦兵庫県の神戸国際高校に勝ち、ベスト8に進出しました。そして、ベスト4をかけた試合は、優勝した北陸高校に2点差で惜敗しました。悔しい思いをしましたが、とても良い経験ができた大会だったと思います。

これから私たちは、この全国選抜大会での悔しさを糧に、より一層努力し、夏のインターハイで全国の頂点に立てるよう、日々練習していきたいと思います。

平成23年度 受験結果について

「大学全入時代」という言葉を耳にするようになって久しいが、実際のところは、全員入学どころか、人気大学と不人気大学の「二極化」が生まれただけで、難関大学と呼ばれる学校は年々狭き門となっている。また、不況が長引く中で、学費の安い「国公立大学志向」や生活費を抑えるための「地元志向」などはさらに強まった。このような状況で実施された23年度入試は、受験生にとってかなり厳しいものであったに違いない。

そんな中、本校では、特進類型を中心にお茶の水大学や筑波大学などを始め、国公立大学に19名の生徒が合格を果たした。また、進学類型では、慶應大学や早稲田大学などの難関大学にも多数合格し、国際類型では海外大学に進学するものも出た。進学率においても4年制大学へ82.4%という開校以来最高の実績を残すことができた。

本校の進路指導は、3年間で進路を決定するという現役主義をとっている。3年間で進路を決定するには面倒見がよくなくてはならない。そのため、本校では年間5回の面談を実施し、面談の内容も教員間で温度差が出ないように面談シラバスを作成し、聞き取った内容はデータとして保管している。これによってデータに基づいた指導が可能となっている。この他にも、本校独自の進路指導により、毎年高い進学率を維持しているといえる。ますます飛躍する本校の進学実績に今後も期待してもらいたい。

進路指導部長 高橋 広和

大学・短大 現役進学率 88%



区分	進学数	現役合格率
国公立大学	19名	
私立大学	482名	82.4%
海外大学	1名	
短期大学	38名	6.2%
大学・短大計	540名	88.7%
看護医療系専門学校	7名	
その他の専門学校	36名	7.0%
総計	583名	95.7%

※上記は、大学・短大合格者のうち、入学辞退した進学準備者を含んだ人数。

平成23年度 現役生受験結果 (合格者延べ数)

国公立大学	私立大学	私立大学	私立大学	短期大学	専門学校
お茶の水女子大学	10文字学園女子大	東京工科大	ものつくり大	島根県立短大	YCC東京校
筑波大学	尚美学園大	東京芸大	ヤマザキ学園大学	青山学院女子短大	ハリウッドビューティー
埼玉大学	昭和女子大	東京国際大	立教大	浦和大短大部	ビジョナリーアーツ
東京学芸大学	湘南工科大	東京女子体育大	立正大	大妻女子大短大部	ホスピタリティツーリズム
電気通信大学	女子栄養大	東京造形大	流通経済大	川口短大	ヤマザキ動物専門学校
埼玉県立大学	女子美術大	東京電機大	レイクランド大	埼玉女子短大	関東工業自動車大学校
宇都宮大学	上智大	東京都市大	麗澤大	清水海上技術短大	高崎福祉医療カレッジ
都留文科大学	上武大	東京農業大	和光大	淑徳短大	埼玉医療福祉専門学校
高知大学	城西国際大	東京富士大	早稻田大	十文字学園女子短大	埼玉自動車大学校
北見工業大学	城西大	東京福祉大	和洋女子大	女子栄養大短大	埼玉理容美容専門学校
島根県立大学	白百合女子大	東京未来大	私立大 小計	女子美術大短大	山野美容専門
釧路公立大学	杉野服飾大	東京有明医療大	563	女子大短大	上智大短大
琉球大学	駿河台大	東京理科大	海外大学小計	星美学園短大	星美学園短大
職業能開大学校	成蹊大	東都医療大	4年制大学 合計	聖徳大短大	聖徳大短大
国公立大学 小計	清泉女子大	東邦大	583	帝京短大	帝京短大
私立大学	聖学院大	東洋英和女学院大	看護・医療系 専門学校	戸板女子短大	戸板女子短大
青山学院大	聖徳大	東洋学園大	浦和学院専門学校	東京家政大短大	東京家政大短大
足利工業大	西武文理大	東洋大	春日部市立看護専門学校	東京農大短大部	東京農大短大部
亜細亞大	専修大	獨協大	さいたま赤十字看護専門学校	日本大学短大	日本大学短大
跡見学園女子大	大正大	二松学舎大	慈恵柏看護専門学校	日本歯科大東京短大	日本歯科大東京短大
浦和大	大東文化大	日本医療科学大	戸田中央看護専門学校	文京学院短大	文京学院短大
江戸川大	高千穂大	日本橋学館大	東京歯科衛生専門学校	武蔵丘短大	武蔵丘短大
桜美林大	宝塚大	日本工業大	日本医科学大学校	山野美容芸術短大	山野美容芸術短大
大妻女子大	拓殖大	日本獣医学生命科学大	看護・医療 専門学校 小計	短期大学 小計	42
大阪体育大	玉川大	日本体育大	7	専門学校 小計	37
学習院女子大	千葉科学大	日本大			
神奈川工科大	千葉工業大	日本保健医療大			
川村学園女子大	千葉商科大	人間総合科学大			
京都学園大	中央学院大	白鷗大			
共栄大	中央大	阪南大			
共立女子大	鶴見大	文化学園大			
慶應大	帝京科学大	文京学院大			
工学院大	帝京大	文教大			
国学院大	帝京平成大	文星芸術大			
国際武道大	デジタルハリウッド大	平成国際大			
国士館大	田園調布大	法政大			
駒澤大	桐蔭横浜大	北海道情報大			
埼玉学園大	東海大	武藏大			
埼玉工業大	東京医療保健大	武藏野大			
実践女子大	東京家政学院大	明海大			
芝浦工業大	東京家政大	明星大			
淑徳大	東京経済大	目白大			
	18	9			



第32期卒業生
在籍 609名

大学合格者体験記

埼玉県立大学保健医療福祉学部 公募推薦



特進類型 小林 愛
(さいたま市立大谷口中学校出身)

私は、高校3年間、勉強に力を入れてきました。文理問わず英語は必要になるので、英単と熟語の参考書は常備し、ボロボロになるまで活用していました。私の目標である県立大は、公募推薦に英文の小論文と面接がありました。今までの努力もあり、英文は比較的読めています。しかし小論文は自分の意見や表現力も必要なので、過去問を解き続け、先生方に添削を頼み、小論文に慣れるようにしました。面接も苦手なので、練習を重ねました。先生方には本当に感謝しています。そして、私は嫌なことから逃げる癖があるので、自分を追い込む為にも毎日進路指導室へ行き、逃げられない状況を作っていました。

一般入試であれ推薦であれ、合格に不可欠なことは、自分に勝つことなど感じています。努力の全ては報われなくても、その中の1つは必ず実を結んでくれます。自分を信じ、目標大学合格を勝ち取ってください。

駒澤大学グローバルメディアスタディーズ学部 指定校推薦



文理選抜 小林 愛
(さいたま市立大谷口中学校出身)

私は、高校3年間「文武両道」を目標にしてきました。思うようにうまく進まないこともありましたが、やるときはやる、とけじめをつけ、結果を出せるように努力しました。

私が進路活動を始めたのは、3年生になってからでした。進路指導室へ通い、どのような学校があるのか、そして自分は将来何をしたいのか考える日々でした。そんな中、見つけたのが駒澤大学でした。この学部には英語での面接もあり、放課後はいろいろな先生に対策をしてもらいました。無事に合格することができました。先生方や両親の協力がなければ達成することができなかつたと思います。感謝の気持ちで一杯です。

受験で、わからないことや不安なことがあっても、先生方や友達が必ず支えてくれます。受験は楽なものではありません。けじめをつけて小さなことからコツコツと、何事にも、積極的に挑戦してみて下さい。

上智大学外国語学部 公募推薦



グローバル 若林 未希
(さいたま市立西原中学校出身)

私は、1年間のカナダ留学、今までの海外生活を通じ英語が好きになりました。将来、英語を使い続けたいと考え、この大学で勉強したいと思いました。しかし、受験するには資格が必要で、留学後は毎月のようにTOEICや英検がありました。

資格が揃ってからはレポートや自己推薦書を繰り返し書く毎日でした。何度も添削してもらう、大切が迫ってくる、先生が出張で不在など、この短期間にいろいろな事がありました。面接練習もやっていくうちに、受験は「自分と正面から向きあう時間」と気付きました。

周囲の人々の支えがあってこそ、自分と向きあえて、目標に向かって進めるんだと実感しました。家族、先生方、友人たちは本当に支えられ、精神的にも強くなり、英語に対する姿勢もまた少し変わりました。

1ついいから、自分の自信につながるものを持つことの大切さを学びました。

中央大学経済学部 一般入試



リーダーズ 大串 勇人
(越谷市立東中学校出身)

授業は予習復習が大事、よく言います。新しい知識をつける1・2年次には特に必要なものだと思います。「そんなの自分ができない。」そんなあなたに浦和学院でお勧めできるものは「特進の放課後講座」です。この講座をしっかりと受けなければ予習復習のどちらかは学校でできてしまいます。「どうせ受験で数学使わないし。」そんな方もとりあえず1年次からきちんと受けたことをお勧めします。何が起こるかわからないし、オンラインマント講座を除き無料です。

受験勉強を私が本格的に始めたのは、少々周囲より遅かった気がします。それでも中央大学に受かることができたのは、講座をしっかり受けたことと、2・3年次は必要な講座をきちんと選択したことで、基礎と多少の発展ができたことにあるはずです。講座を活用して下さい。

受験勉強は辛いものですが、自分で楽しむ工夫をすれば、楽しくなります。頑張ってください！

早稲田大学国際教養学部 A.O.



文理進学 宮本 拓馬
(三郷市立南中学校出身)

勉強は量よりも方法です。いかに効率よく勉強できるかが大切です。皆が皆そうであるかはわかりませんが、私はそうでした。試験の数ヶ月前から勉強を始め、ようやく自分にあった効率の良い勉強方法に出会えました。そして徹夜をしながら合格を勝ち取りました。

この文章を読んでわかると思いますが、私は決して勉強ができる人間ではありません。クラス順位は真ん中より下、評定平均もクラス平均の真ん中位、欠席も遅刻もあります。唯一クラスで1番だと自信があったのは、将来就きたい仕事の明確な目標と英語力です。目標のためだと思ったら、勉強も苦ではありませんでした。

浦学は先生方の人数も多いです。いろいろな専門分野の先生が揃っている恵まれた環境です。自分が行きたい学部出身の先生を見つけて早めに準備するのをおすすめします。頼れるすばらしい先生はたくさんいますよ！先生方、ありがとうございました。

中央大学経済学部 スポーツ推薦



文理選抜 松本 和
(三郷市立北中学校出身)

私は、この3年間、文武両道で高校生活を送るように心がけてきました。部活動の練習で帰宅するのが遅くなり、勉強できることも多かったです。普段の授業とテスト期間中の勉強を大切にしました。その結果、1年次から3年次まで良い成績を維持することができました。

私はスポーツ推薦で面接と小論文があったので、その2つを練習しました。小論文は3年の初めから毎朝クラスの朝自習で練習していました。部活動を引退してからは、毎日のように書いて、担任の小田切先生に指導していただきました。面接の練習はたくさんの先生方に見ていただきました。初めのうちは全くできず注意されてばかりでしたが、毎回やるにつれて上達してきました。どちらも毎日の積み重ねがあったからこそ上達したのだと思いました。たくさんの先生方にご指導いただき本当に感謝しています。ありがとうございました。

慶應義塾大学文学部 自己推薦



文理進学 小泉 誠
(茨城県桜川市立岩瀬東中学校出身)

「自らの現状から目を背けないこと」私が野球部に所属し、「文武両道」を胸に3年間を過ごした中で、特に大切だと感じたことがこのことでした。自らを理解しなければ、適切な目標を立てることは出来ません。これは何事にも通じる重要なことです。

そして、大学受験を通して改めて実感したのが、たくさんの人に支えられているということです。担任の安保先生は、私が慶應義塾大学に挑戦したいと伝えたときも「お前ならできる。」と励ましてくださいました。教科担任の先生方もいつも気に掛けてくださり、友人は常に前向きな言葉で応援し続けてくれました。このようなたくさんの応援があったからこそ、後悔のない進路活動を行うことができたのだと思います。

受験は自分との戦いですが、必ず支えてくれる人がいます。在校生の皆さんも、後悔のない進路活動を行えるよう頑張ってください。

お茶の水女子大学文教育学部 一般入試



リーダーズ 大東 彩香
(吉川市立中央中学校出身)

私は、進路活動を始めたときから国立を志望していたので、受験勉強も最初からそれをメインにやってきました。そして、センター試験で目標点を突破し、この大学を受けることを決めました。

しかし、周りが進学先を決めていく中で受験勉強をし続けるというのは、精神的に辛いときもあります。特に、適正校だと判定されていた私立に落ちたときは、もうどこにも受からないんじゃないかなとさえ思えてきて、不安で押しつぶされそうでした。しかし、先生方や両親の支えもあり、気持ちを切り替えられたことで、見事合格することができました。

私は、受験を通して、諦めない心の大切さを強く感じました。皆さんにもそれぞれ目標があると思いますが、絶対に諦めず、最後まで頑張りぬいてほしいと思います。

武蔵大学経済学部 指定校推薦

東京学芸大学教育学部 公募推薦



文理進学 齋藤 拓也
(さいたま市立木崎中学校出身)

私は、自分がずっと志望していた大学に合格することができました。受験を終え嬉しい思いをするには、心構えや考え方方が大切だということを感じます。今、特に感じることは、誰に何を言われても自分の行きたい大学を志望すること。

浦和学院の先生方は進路に大きな力を貸してくれます。その力を加えて自らも努力をしてより理想の進路へ行くこと。自分の実力を決めてつけないことはとても大事だと思います。私は進路活動を通じて、特にそれを学びました。先生は、確実な進路へ進ませてくれます。ですが、自分の実力よりも上の道へ挑戦することも大事です。

そして、厳しいですが、学業でも部活動でも成績を上げるために当たり前に努力しなければ理想的な進路は近づきません。しかし、浦和学院には受験を応援してくれる方がたくさんいます。覚悟を持てばきっと希望の進路へ進めると思います。後悔しないように頑張ってください。

日本大学芸術学部 A.O.



アート 富田 菜奈未
(川口市立南中学校出身)

3年生になって、初めは練習のつもりでA.O.入試を受けることを決めました。昨年7.6倍という倍率に怯えながらも、ベストを尽くそうと努力をしました。まず真っ白なエントリーシートが3枚。何も思ひつかいませんでした。そんな出だししから戸惑う私を美術の先生方は根気強く指導してくださいました。試験はエントリーシート、1次試験、2次試験の3段階で、今までやったことのない課題内容ばかりでした。不安と疲れが積もる中、夏休みも毎日学校へ来て、先生と二人三脚でがんばりました。最初は自分を試すために受けたのに、次第に本気になっていました。それはきっと一緒にになって真剣に考えてくれる先生方や課題に快く協力してくれた友達、何も言わずに支えてくれた家族など、たくさん的人に応援してもらったおかげだと思っています。

自分の人生を変える勉強は今しかできません。あきらめずに合格できるまで頑張って下さい。

上智大学外国語学部 公募推薦



文理選抜 稲川 志津
(吉川市立中央中学校出身)

私が武蔵大学を受験しようと思ったのは、進路指導の先生に勧めただいたのがきっかけです。オープンキャンパスに参加してみると、以前から興味を抱いていたマーケティングの授業を受けることができ、また1年次からゼミで学べるという充実したカリキュラムに大変魅力を感じ、受験を決意しました。

受験をするにあたって、先生方に小論文と英語の指導をしていただきました。私が合格できたのは、家族や友人、そして温かい指導をしてくださった先生のおかげです。本当にありがとうございました。

受験を通じて学んだことは、努力の大切さです。日々の学習が受験勉強につながってくると思います。皆さんも努力を惜しまず、夢や目標に向かって頑張って下さい。応援しています。

中央大学経済学部 一般入試



リーダーズ 大串 勇人
(越谷市立東中学校出身)

埼玉大学教育学部 一般入試



サイエンス 澤田 雅憲
(越谷市立西中学校出身)

私は、早い段階で国立大学に行こうと思っていました。センター試験の日までセンター以外の勉強をしませんでした。なぜならセンター試験で私立大学が受験できるし、国立大学もセンター重視の配点だったためです。しかしセンター一本番で力を出し切れなかった科目が2つあり、希望大学の合格ラインに届きませんでした。しかたなく判定の良かった大学の前期と後期を出願しました。

ところが前期は落ちてしまい、とても落ち込みました。後期は同じ学部でも倍率は高く判定も良くなかったので見込みがなかったのです。

しかし、あきらめず一生懸命勉強して晴れて後期で合格することができました。あきらめないで本当に良かったです。何でも挫折せず、あきらめないことが一番大事です。そして先生や先輩方には最後まで指導していただき、本当に感謝しています。

修学旅行

3年C組 荒 枝美子（越谷市立中央中学校出身）

今回の修学旅行で私はたくさんのこと学びました。そのうちの3つについて書こうと思います。

1つ目は目を見て話すことの大切さです。私は人の目を見ることが苦手です。話すときも聞くときもどうしても目を合わせることができませんでした。しかしオーストラリアでは視線を合わせることが大切と聞いたので意識して目を見るようにしました。するとだんだん慣れてきて、普通になりました。また、目を見ることで心に深く残り、より話を理解できるようになりました。これはとても大事なことだと思いますので、これからもできるようにしたいです。

2つ目は積極的に動くことです。この修学旅行はオーストラリアでのホームステイということなので、全て英語でのコミュニケーションになります。そのため、部屋にこもったりせず自分から話しかけたり手伝いをしなければなりません。どれだけ英語を使おうとするかが重要でした。しかし、私はあまり積極的にはなれず、少し後悔しています。だからこの後悔を無駄にしないよう、これからは積極的に行動したいと思います。

3つ目は表情豊かにすることです。私は初め、オーストラリアの方のオーバーラクションに少し驚きました。しかし、とても伝わりやすいということは確かでした。私は普段表情にあまり変化がなく、少しロボットのようです。だから気持ちが伝わらないことがあります。ですからこれからはオーストラリアの人を見習い、わかりやすく自分を表現できるようになりたいと思います。

私は、今回の修学旅行でたくさんの経験をし、多くのものを得ました。これらをどれだけ活かせるかが大事だと思います。



3年V組 抜井 舞華（三芳町立三芳東中学校出身）

私は、今回とても貴重な体験をすることができた。まず1つ目はファームステイについてである。私たちは今回、校長先生が、おしゃったように、国際交流、コミュニケーションや日本の良さを再認識することをモットーに、オーストラリアへ出発した。

ファームステイ先のファミリーの皆様にあたたかくむかえていただき、人のあたたかさを改めて感じることができた。英語はあまり得意な方ではなかったが、ファミリーの皆様は、私の言葉を聞きとり、感じとろうしてくれた。私も英語の授業で勉強した知っている単語を聞きとり、理解できるよう努めたつもりである。そして、言葉が通じなくても身ぶり、手ぶりでコミュニケーションができるということを学んだ。また、笑顔はどの国でも共通であるということを学んだ。最初は、少し恥ずかしくて、どうすればいいのかわからなくて、おどおどしていた私をあたたかくむかえいれたファミリーにとても感謝している。ファミリーの方は人のあたたかさを教えてくださった。最後の別れの時は感謝の気持ちが溢れ、涙を流さない約束をしていたが、結局泣いてしまった。また何年後か大人になってオーストラリアに行って、ファミリーの皆様に会いに行きたいものである。

次に、日本の良さを再認識することについてである。オーストラリアには素晴らしい建造物がたくさんあり、有名な観光地もたくさんあった。食事もとてもおいしく、非常に食べやすいものであった。さらにオーストラリアには日本食のレストランが多く見られた。オーストラリアでは日本食を健康食として食べているそうだ。オーストラリアにはオーストラリアの良さがある。しかし、今回他国との国際交流、滞在したことにより、日本の料理やルールをはじめ、日本人として誇りを改めて持つことができた。他国に初めて行き、人のあたたかさ、日本の良さを改めて身をもって感じ、考えることができた。そしてこの環境に感謝し、両親に感謝したい。

語学研修

2年S組 中澤 美香（久喜市立久喜南中学校出身）

私は、語学研修に参加出来た事は、自分にとってとても良い経験だったと思いました。

最初は、全く日本語が話せない先生ですと英語だけの会話で自分が伝えたいことが分かるのだろうか、相手が伝えたいことが、私は分かるのだろうかと不安な気持ちがあつたけど、思っていることと違って、会話がとてもはずみました。3日間ずっと英語の勉強というのは、正直言うと大変でした。でも自分と違う国の人と話す事は、本当に楽しいんだなと思いました。文化も言葉も何もかもが違うけれど、違うからこそ、英語の先生から普通の生活では教えてもらう事が出来ないことをたくさん教えてもらう事が出来ました。授業以外でも、2日目は外で遊び、日本での遊びで、違う国の人人が知っている遊びが思ったよりたくさんあることを知りました。夜のスペシャル授業では、イス取りゲームをやりました。鬼になると、英語で言うのは、難かしかったけど、本当に楽しかつたです。

授業以外の時間でも、歩いていると他の先生もたくさん声をかけてくれました。最初は話しかかれると緊張して、上手く答えられなかつたけど、3日目になると自然と話せるようになりました。

そして、何よりもきれいな富士山が見られた事も本当に良かったです。天気にも恵まれて、3日目は、富士山に雪がきれいにかかっていて、すごかったです。埼玉で見る富士山と静岡で見る富士山は、やっぱり違うなとあらためて思いました。

今回の2泊3日の語学研修は、本当に私にとって良い経験になりました。前から外国に興味があったけど、もっと興味を持ちました。やはり、自分と違う国の人とコミュニケーションすることは良いことだし、たくさんの国の人と友達になることは、いろいろなことを学べるので、いいなと思いました。また、機会があれば、いろいろな国の人と話してみたいと思いました。



卒業記念講演会

～安田大サーカスの団長、安田裕己さん来たる!～

23年度卒業記念講演会に、芸人の安田裕己さんが講師として来校されました。あの安田大サーカスのリーダーです。やはり芸人の方、実際に体育館に入ってくると一瞬にして笑いをとり、会場全体が安田さんのペースにすっかり引き込まれていました。

お話の内容は、高校時代から芸人になるまでの経緯、そしてその中でも安田さん自身が体験された阪神大震災についてのお話は、特に印象的でした。昨年3月の東日本大震災についての思いも含めて、真剣に語る安田さんに生徒の視線が集中し、会場はとても静かな場面もありました。一方で、芸能界の裏話やリーダーとしての苦労話を、笑いをとりながら一瞬たりとも退屈させない話術で楽しく語ってくれました。卒業生のみなさんもこれからたくさんのことを経験し、自分なりの生き方を探してください。



L'Arc



このたび、浦学ふみり～憩いの場としての工事を進めてまいりました『夢と希望の泉』（通称 浦学の泉）が校内敷地の一角に完成致しました。21年度・22年度・23年度卒業生の卒業記念事業として浄財を賜り、同窓会からは、夢と希望の泉の象徴である自然石を寄贈いただきました。この施設は、ひとときの安らぎを求める憩いの場として、授業やグループ活動での有効的な利用の場として、生徒たちが元気いっぱいに過ごす安全な場所として、生徒・教職員のみならず、保護者・地域・卒業生など、より多くの皆様に幅広い利用を促進してまいります。

第15回被災地交流活動



15回目となった東日本大震災交流活動は、2月25日・26日の両日、石巻市立北上中学校と隣接する「にっこりサンパーク仮設住宅」にて行われた。今回は初の教職員編成（16名）で炊き出し、血圧・心電図測定、子どもたちとのふれあいコーナーを設置した。炊き出しは、豆乳鍋・サムジャン丼・ポテトサラダ・おしるこなどのオリジナルメニューを提供し、大好評であった。

前夜3時までの仕込み、朝6時からの雪かき作業、参加した教職員全員が「安全に・美味しい・気持ちよく」を心掛け、被災者の方々に喜んでいただいた。

